－所蔵作品紹介－

岡沼　淳一　OKANUMA Junichi

あやふやな空

あやふやなそら

作品データはこちら

函館に生まれた岡沼淳一は、北海道学芸大学函館分校（現・北海道教育大学函館校）在学中に全道展（1981年会員）に具象彫刻を出品し入選。その一方で、十勝出身の彫刻家富谷道信の作品に感銘を受けるなど、抽象への関心も深めていった。卒業後は十勝で教員を務めるかたわら制作に取り組み、1971年に抽象木彫の大作で全道展の奨励賞を受賞。その後、自由美術展（1990年会員）や道内各美術館の企画展への出品も重ねている。

この作品では、傾き、たわみ、そして部分的に激しい起伏をみせながら均衡を保つ環によって、緊張感のある空間が追求されている。素材のもつ重量感と、流動性に富んだフォルムとの間に生じる視覚的なギャップは、見るものをどこか「あやふや」な感覚の世界へと誘い込む。さらに、環の内部を通して周囲の空間がとりこまれることで、あたかも絶えず変化し続ける空のように、作品の表情には無数のヴァリエーションが生まれる。その一方で、磨きあげられた表面の木目や、外周に施された彫痕などのディテールの美しさ、そして岡沼が好んで素材としてきた、十勝川流域の川底の埋もれ木ならではの味わい深い色調が、斬新な造形に素朴なぬくもりをそえている。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より